

第2日目 午前の部

視察施設 西大門総合社会福祉館
日 時 6月10日 9:30~12:00
所在地 ソウル特別市西大門區南加佐1洞 115-63

<施設概要>

1992年に開設された高齢者向けのサービスに特化した社会福祉館。ソウル市から945坪の土地の提供を受け、本館はLGグループが全て寄贈の建物、別館は法人として後に増設を行っている。社会福祉館は国内に427箇所。ソウル市内には95箇所あるが、3年に1度行われる監査（優良施設の評価）で2009年に最優秀施設として認証されている。福祉館以外に老人センター、子ども家など49施設を運営しており、年間27万人がこの福祉館のサービスを利用している。年間の事業費予算は約21億ウォン（約2億円弱）で、政府からの補助金が62.5%、企業からの寄付が10%、事業運営の収益事業として約10%の構成比となっている。この福祉館の総職員数は49名で、内25名がこの施設で従事している。職員の保有資格の内、社会福祉士が20名。高齢者向けの各種アクティビティの運営は、ボランティアによる自主活動として運営されており、登録ボランティア数2,770名、年間活動事業数として延べ5,200件以上、金額ベースで3,700万円程度の実績がある。この福祉館の講座に参加した方の大半が何らかの形で事業運営に関わっている。地域内の55歳以上の参加意欲のある方を対象としたシニアボランティアを【セシボン】（仏語で「すばらしい」）と呼んでいるが、ボランティア参加者自身が講師や運営スタッフとして関わることで、新たな生きがい・やりがいを醸成している。



「社会活動から外れた老人に教育し社会参加を促進する」ことを基本方針として「高齢者の雇用促進事業」を進めている。特に技能指導講習では、美容室やカフェなど資格が必要な分野は当福祉館で、その資格取得の講座を開き、自身の店がもてるように自立支援の援助をしている。

また低所得層への支援や家族の支援強化などの為に専門官を養成し派遣する事業を重点課題として掲げている。

高齢者の健康と教養に関して、①Eシニアとしてパソコンスキルアップ講座を開設。②一般教養講座では、書道・ダンス・歌・英会話など健康で文化的な活動を支援している。

在宅向け事業は「幸せな家庭を」をスローガンに各種事業を展開している。マッサージ及びリハビリ、韓国での情報化への対応としてパソコン講座・資格取得の為の特別講座、社会になじめない青少年への教育と青少年ネットワークへの支援を目的として専用センターの開設。障がい児童の早期発見事業として、言葉や認知行動等のあそびを通じての治療。児童館の開設運営などがあげられる。これらの事業は住民や講座参加者へのアンケート調査をもとにプログラ